

法学・心理学を専攻する学生の連携

—司法に関わる諸問題への学術的アプローチ—

研究会代表：人間科学研究科D2
武田悠衣（タケダユイ）

目的

本研究会では、心理学を専攻する学生の中でも法学・犯罪学分野の研究を行う学生同士が、積極的に研究を社会に発信していけるような環境づくり、また、大学院生のみならず、学部生に向けて司法・犯罪心理学をより身近に感じられるような環境づくりや自身の今後の研究のきっかけとなる場の提供を目的として活動してきた。主に昨年度の課題点として、法学を専攻とする学生の入会の少なさが挙げられていたため、本学の法学部生との交流を重点的に活動してきた。加えて、昨年度はコロナ禍により対面での活動が制限されてしまっていたため、オンラインではなくできる限り対面での活動を中心に参加してきた。

研究会活動

【心理学部生と法学部生徒の交流】

衣笠キャンパスで開催されている法学部ゼミに参加し、交流を深めてきました。学部生や大学院生という改正を超えた交流ができました。

・心理学生による研究紹介（@オンライン）

→本研究会の会員2名が法学の実務的な課題として司法面接（代表者聴取）に関する研究紹介しました。

・法学部3・4回生の論文発表紹介（@オンライン）

→法学部の学生が取り組んでいる卒論テーマの報告を行いました。参加した心理学生は法学の基礎知識や論文構成を学び、法学生は心理学の視点について学ぶことができました。

・受刑者・元受刑者の社会復帰支援を行うNPO法人マザーハウスの方との交流会への参加（@衣笠）

→受刑者・元受刑者の社会復帰に関する現状をお話ししてもらい、少人数グループに分かれて交流しました。学生からの素朴な疑問や真に迫る質問まで丁寧に回答していただきました。

NPO法人マザーハウスについて詳しくはこちらをご覧ください
<https://motherhouse-jp.org/>



【少年院訪問】

石川県金沢市にある湖南学院（初等・中等少年院）へ訪問し、施設での取り組みや地域との連携について学びました。



【学会参加】

本研究会の会員が研究知見を深めるために2つの学会に参加しました。研究の最先端、実務者との交流を深めることができました。

- ・日本パーソナリティ心理学会 第31回大会（@沖縄）
- ・日本子どもの虐待防止学会 第28回学術大会ふくおか大会（@福岡）



研究成果と今後の活動

【学会での個人発表】

個人の研究成果として、

学会発表が14件（日本心理学会、法と心理学会、日本パーソナリティ心理学会）

→ポスター発表、口頭報告、ワークショップと多くの研究成果を発表しました。

【今後の活動】

コロナ禍により訪問が制限されていた司法関連施設への訪問や公認心理師や法曹を目指す学部生・院生対象に司法面接研修会の実施を検討しています。

本研究会の成果を学会で報告するほか、会員が国際学会へ参加できるように国際的な勉強会を実施します。

また、研究テーマの発表の場としてコンテスト形式の研究会の開催も目指します。

主な研究テーマ

- 司法面接研究
- CPB(カメラ・パースペクティブ・バイアス)研究
- 出院者/出所者支援研究
- 司法取引研究
- 裁判員裁判の評議プロセス研究
- 道徳判断研究・少年犯罪研究



大阪法務少年支援センター
（大阪少年鑑別所）